おわりに

今回の検証にあたっては、６月から４回にわたって検証してきたところであるが、今年度出された厚生労働省の検証結果等の第８次報告の内容や平成 22 年度の静岡市における児童虐待事例検証結果報告とも重なり合うことが多い。

情報、アセスメント、リスク、連携等どの報告書にも出てくる言葉であり、それだけに重要なキーワードだと考えられる。こうしたことは、携わる人(職員)の意識の問題が根底としてあり、それを醸成し確かなものとしていくのが組織だと考えられる。

事例を振り返った時、新たな情報を「点」としてだけ捉え、点と点を結びつける意識や努力が少なかったように思われる。事例を捉えるためには「点」と「点」を結びつけ「線」に、「線」をつなぎ合わせ「面」とすることが必要である。さらにそうした意識を持つためには当事者意識を持って「子どもを守る」意識が中核になる。

そして、それらを補完し、促すよう関係機関や協議会等が機能していなかったこともあげられる。

こうしたことをしっかり担保していくためには関係当局ばかりでなく、静岡市行政全体で考えバックアップしていくことが必要となる。

また、静岡市だけでは解決できない課題ではあるが、虐待の検証の都度思うことは、虐待が起こらないようにするための教育、普通に子どもを産み育てるための何らかの教育をしていかないことには虐待の連鎖を断つことはできないように思う。

そのためには、小、中、高等学校、地域、家庭において、子どもを産み育てることの大切さ、つまり、子どもの命を継承する意義等について、教育を充実強化することも必要であると考える。

本件で被害のあった子どもたちが、今後健やかな発達をしていけるよう、また、この子たちの受けた痛みが無駄にならないよう提言の確かな実行を静岡市にお願いする。

静岡市児童虐待事例検証委員会